

研究題目：総合型地域スポーツクラブの国際化の可能性と課題

政策・メディア研究科 修士1年 (PS)

中元悠花子

1、研究概要

本研究では、山形県鶴岡市で総合型地域スポーツクラブを研究対象とし、総合型地域スポーツクラブの現状を把握し、国際化に必要な条件を明らかにする。現在日本では、生涯スポーツや地域振興を目的に「総合型地域スポーツクラブ」を推進している地方自治体が増加している。一方で、日本が強豪国であるスポーツ競技でも欧州などのように外国人が総合型地域スポーツクラブに留学する環境や機会がない。2019年、本塾の富田勝教授が市や地域住民と協力して、15歳以下の国内・国外のアスリートを招き、国際バドミントン大会を主催した鶴岡市で、来年度以降国内のジュニアスポーツ国際化による地域を活性化させる施策を提言し、世界・日本中から集まる持続可能なスポーツの聖地を目指したモデルケースを構築する。

2、研究目的と背景

本研究では、国内で欧米のようにジュニアスポーツの総合型地域スポーツクラブの国際化が可能であるか、また国際化をどのように行えばよいかを明らかにすることを目的とする。

日本の地方都市は、地域コミュニティの希薄や経済縮小、人口減少など様々な社会問題に直面している。近年、地域コミュニティの構築といった社会課題解決を目的とした総合型地域スポーツクラブの設立が増加している。スポーツ庁によると、総合型地域スポーツクラブとは、「人々が、身近な地域でスポーツに親しむことのできる新しいタイプのスポーツクラブで、子供から高齢者まで（多世代）、様々なスポーツを愛好する人々が（多種目）、初心者からトップレベルまで、それぞれの志向・レベルに合わせて参加できる（多志向）、という特徴を持ち、地域住民により自主的・主体的に運営されるスポーツクラブ」と定義している。また、文部科学省では、総合型地域スポーツクラブの「総合型」を「種目の多様性、世代や年齢の多様性、技術レベルの多様性の3つの多様性を包括しているもの」としている。スポーツクラブとの違いは、地域住民が主体である点と内輪で楽しむ「私益」ではなく、地域住民に開かれた「公益」を目指した、経営意識を有する非営利的な組織である点だ。調査が始まった、2002年では541団体だったが、2020年には3594団体と約7倍になった。一方で、海外の総合型地域スポーツクラブは、日本からスポーツ留学をするジュニアアスリートを

受け入れているが、日本が強豪のスポーツであっても世界各国からジュニアアスリートを長期的に地域で受け入れ、育成する総合型地域スポーツクラブは少ない。また、ここ数年は教師の働き方改革のため、中学の部活動から総合型地域スポーツクラブへ移行する動きがあり、総合型地域スポーツクラブの運営体制を整える必要があると考える。

3、研究意義

本研究によって、国内外から人が集まり、地域の飲食や生活関連サービスが拡大され、税収が増えるなど、課題の解決に貢献できる可能性がある。また、地方都市の総合型地域スポーツクラブが注目されることで、住民の関心が高まり、世代間の交流が増え、地域コミュニティの機能の向上や、住民の健康の促進が期待できる。特に地域コミュニティの強化は、孤独死といった社会問題の解決にも繋がる。また、ジュニアアスリートの国際化は、技術向上だけでなく、文化・価値観の違いを学ぶことができ、世界中にコミュニティを広げ、日本の子どもたちの教育的価値もあると考える。

4、2021年度の実施内容および森泰吉郎記念研究振興基金の用途

新型コロナウイルスの感染拡大の影響で当初の予定と変更があった点もあるが、山形県鶴岡市でのフィールドワーク活動や本研究の基礎にあたる文献調査などをして研究を進めた。森泰吉郎記念研究振興基金は、調査・インタビューのために必要な交通費や機材の購入などに使用した。

5、今年度研究成果

本年度は、主に研究対象である山形県鶴岡市に2021年6月22日(火)～9月8日(水)に滞在して山形県鶴岡市でプレインタビューや文献調査を行い、市内の地域スポーツの現状と課題などを調査した。

※新型コロナウイルスの感染拡大に伴って、鶴岡市内でのフィールドワークは慶應義塾大学鶴岡キャンパスの指示に従い、2週間の自宅待機及び、自主的にPCR検査を受けてから調査を行った。そのため、6月22日～7月5日、7月26日～8月9日は、2週間の隔離を行い、研究活動を自粛した。

[調査概要]

- ・鶴岡市内のスポーツ少年団とクラブ(7団体)の参与観察
- ・鶴岡市内のバドミントンスポーツ少年団監督へプレインタビュー(7名)
- ・鶴岡市内の総合型地域スポーツクラブ立ち上げ関係者、各総合型クラブスポーツクラブクラブマネージャー・事務局員、市役所関係者へプレインタビュー(17名)
- ・世界バドミントンU15庄内国際招待2019関係者(11名)

調査の結果、スポーツ少年団が抱える課題として主に、指導者不足・団員減少・練習環境が整っていないことなどが挙げられた。総合型地域スポーツクラブが抱える課題としては、運営面において、財源の確保・指導者の継続的な確保・人件費・会員の確保・補助金が減っているにもかかわらず、中学との連携など、自主運営に任せている総合型地域スポーツクラブに皺寄せがきていること・地域スポーツという括りで、様々な団体が活動を行っていること・別の仕事と両立しているため、熱心に活動できないことなどが挙げられた。また、鶴岡市以外の地域で活動している総合型地域スポーツクラブと比較した結果、クラブに対する市民の認知度がとても高く、市民を取り巻くスポーツ環境が充実していることがわかった。また、山形県鶴岡市では各スポーツ少年団からほぼ毎年、日独スポーツ少年団同時交流¹の派遣をしていて、幅広い年代に経験したことがある人がいることがわかった。2019年に開催した世界バドミントンU15庄内国際招待では、積極的に活動する市民も多く、大会についての印象と感想を市民の方々に聞いたところ、肯定的な意見がとても多かった。山形県鶴岡市では、スポーツによる国際交流が受け入れられやすい環境ではないかと今後の可能性を感じた。

¹日本スポーツ協会では、1974年以来毎年、日本スポーツ少年団に所属する日本スポーツ少年団に国際経験豊かな指導者を育成するため、日独両国のスポーツ少年団のリーダー125名が互いに相手国を訪問し、グループに分かれて各地でホームステイをすると共に、スポーツ交流や視察研修等のプログラムを18日間に渡り実施する交流事業を行っている。

6、謝辞

この度は、2021年度森泰吉郎記念研究信仰基金に採択いただき、誠にありがとうございました。森泰吉郎記念研究振興基金は、フィールドワーク調査に必要な機材の購入などに充てさせていただきました。ご支援のおかげで、研究活動を円滑に進めることができました。ご支援いただいた責任を果たすべく、さらに今後より一層の研究に励み、成果を出せますよう精進して参ります。

[参考文献]

- ・日本スポーツ協会、スポーツ少年団とは(<https://www.japan-sports.or.jp/club/tabid265.html>)
- ・文部科学省 総合型地域スポーツクラブ育成マニュアル (https://www.mext.go.jp/a_menu/sports/club/main3_a7.htm)